

# 美濃加茂市

事例 4 「多文化共生推進座談会」開催事業

事例 5 「定住外国人自立支援センター」運営事業

## 事例4 「多文化共生推進座談会」事業（美濃加茂市）

本事業は、自治会関係者、民生児童委員、PTAの役員をはじめとする地域の日本人住民が、多文化共生のまちづくりを地域の課題として捉え、自分たちが何をすべきか、何ができるのかについて、地域の外国人住民とともに話し合い、考える座談会を開催するものである。

### 1. 外国人住民の現状

美濃加茂市内の外国人数は約4,800人（2011年2月1日現在）であり、国籍別にみるとブラジル人が最も多く、外国人の約6割にあたる約2,700人を占めている。

市人口に占める外国人登録者の割合は約8.8%となっており、全国の市の中で最も高い割合となっている。

### 2. 背景・事業の目的

本事業は、美濃加茂市の多文化共生推進の基本指針「美濃加茂市多文化共生推進プラン」（2009年3月、計画期間は5年間）における「地域社会に対する意識啓発」の一環として、開始されたものである。

2007年に美濃加茂市が実施した市民意識調査によると、市内に外国人住民が多く暮らしていることについて実感はされているものの、外国人との付き合いについては「まったく言葉を交わさない」との回答が45.4%、外国人住民が増えることについて「不安」との回答が48.6%となる等の結果が得られている。こうした中、日本人住民と外国人住民の接点を広げ互いの理解を深めることの重要性の認識の下、多文化共生のまちづくりのため地域社会にできることの気づきや意識啓発のきっかけとなる事業として、本事業は開始された。

座談会は、小学校区による地区を1つのエリアとして、市役所が中心となって自治会関係者等に声をかけることにより立ち上げられたものである。少しでも多くの地域での意識啓発を図るため、市では1年間主体的に座談会運営に関わるものの、翌年以降は当該地域の自主的な取組みにゆだね、市主導の座談会は別の地域にて実施する形とされた。

### 3. 事業の内容

#### (1) 事業の実施主体

本事業は美濃加茂市が実施している。

## (2) 事業の実施年度

2008年度に開始し、2010年度は3年目にあたる。

## (3) 事業の実施地域

2008年度は古井地区、2009年度は太田地区、2010年度は加茂野地区において座談会を開催している。

なお各地域において、これらの事業年度以降も、地域住民の自主的な取り組みとして継続されたり、あるいは何らかの形で継続できるよう検討されている。

## (4) 座談会の内容

座談会では、自治会関係者、民生児童委員、PTAの役員をはじめとする地域住民が集まり、多文化共生のまちづくりに当たっての地域の課題やできることは何かについて、その地域に住む外国人住民とともに話し合っている。

2010年度に実施している加茂野地区では、これまでに計5回の座談会が開催されている。日本人と外国人がともに地域の課題について話し合う座談会に加え、ブラジル人教会にてミサの見学、ブラジル料理の体験、児童館主催のもちつき会への参加など、地域イベントや外国人の文化に触れる活動も実施している。加茂野地区では、行政と接点のある者やその知人等を中心に10人前後の外国人が座談会に参加しており、さらにイベント時には普段参加していない外国人も多く参加している。

市内では、外国人住民によるごみや騒音などのトラブルも発生しているが、座談会ではこうした課題の原因を追及するものではなく、自分たちができる解決方法は何かを話し合うことを目的としている。座談会では、参加する外国人が外国人住民の代表として非難を集中的に受けることや、行政への陳情を行う場とならないよう、市が運営上の配慮をしているとともに、参加する日本人住民も、自治会長等が中心となって高い意識を持ち、自分たちができることは何かという視点で話し合いがなされている。

## 4. 事業実施年度・予算額

2010年度の予算額は370千円となっている。

## 5. 事業の実績・成果等

本座談会は各地域において1年間の取り組みであるが、その後各地域において、地域住民によって次のような自主的に取り組みが継続されている。

2008年度に座談会を実施した古井地区では、座談会に参加した自治会の代表者が、地域社会ができる取り組みに関心を高め、翌年以降その代表者が

中心となって自主組織が立ち上がった。自治会の代表者は地域での信頼が厚く、キーパーソンとなってさらに5、6人の協力を得ることにより、活動が継続している。活動内容は、最初は会合だけであったが、イベントなども交えながら工夫して参加者を募り、話し合いが継続されている。

2009年度に座談会を実施した太田地区は、美濃加茂市の中心に位置し、駅前の商店街の活性化や旧中山道の宿場町を中心とした町おこしなどに力を入れている地域である。そのような背景もあり、多文化共生は地域課題としては優先度が必ずしも高くなっていない。しかしながら、座談会が終了した翌年も、当時の参加者と市との意見交換を実施し、地域のイベントに外国人住民の参加を促すなど、イベントを中心とした多文化共生の取組みが検討されている。

2010年度で座談会が終了する加茂野地区では、座談会の中で来年度の自主的な継続に関して意見が出ている。市では座談会とは別に、地域振興事業として地域の問題解決のための地域協議会を立ち上げる予定としていることから、その地域協議会の部会として座談会を位置づける方向で、検討が進められている。

これらの3地区での経験から、座談会が市主導ではなく地域の自主的な取組みとして継続していくためには、地域のリーダーの存在が大きいことと、地域のイベントに外国人を巻き込んでいくといった運営上の工夫が有効であると考えられている。

座談会の成果としては、地域行事に多文化共生の視点を取り入れる気づきが生まれてきたことが挙げられる。しかしながら、その意識の変化は地域の役員の間にとどまっており、地域の日本人住民への気づきの広がりや、外国人住民の間での積極的な機運には必ずしも至っていないものと見られている。

今年度の加茂野地区では、活動のまとめとして、「美濃加茂市多文化共生プラン」の理念である「新しい仲間と笑顔で暮らすまちづくり」に向けて、座談会のアドバイザーによる地域住民に対する講演会と、講演会後の持ち寄りの料理やお菓子の試食会等を開催することによって、地域住民に楽しく参加してもらうよう工夫することが検討されている。



加茂野地区座談会の様子



加茂野地区座談会の様子

(ブラジル、ペルー、フィリピン、ミャンマーなど様々な外国人と共に、加茂野児童館主催のもちつき会に参加)

出所) 美濃加茂市ウェブサイト

<http://www.city.minokamo.gifu.jp/seikatu/contents.cfm?id=3373&glid=3>

## 事例5 「定住外国人自立支援センター」運営事業 (美濃加茂市)

本事業は、地域で暮らす外国人のための生活相談や、不況下で解雇された外国人への就労支援、就業促進のための各種事業を行う「定住外国人自立支援センター」を開設・運営する事業である。

### 1. 背景・事業の目的

金融危機等を受け、外国人の生活相談や就労支援の必要性が高まっていた中で、こうした機能を果たす視点から3年間継続可能な国の「ふるさと雇用再生事業」を活用することで事業が開始された。

開始時は中央公民館の一室を使用してセンターを開設したが、市役所の一つと思われてしまい外国人が寄りにくいとの声が寄せられたため、同センターは民間施設に移転することとなった。

また、外国人自身の目線で相談等に対応するため、事業の運営には外国人自身の力を活用することとされ、外国人コミュニティの一つである「ブラジル友の会」に事業を委託することとされた。

### 2. 事業の内容

#### (1) 事業の実施主体

同センターの運営は、市からNPO法人「ブラジル友の会」に委託されている。同法人は日系ブラジル人が立ち上げたNPOであり、問題を抱えてセンターを訪れる日系人にとっては、同じ日系人が相談相手とのことで気軽に安心して利用できるメリットを生んでいる。また日系人以外の外国人住民にとっても、行政よりも同じ外国人に支援を求める方が抵抗が少ないと見られ、同センターは行政に届きにくい外国人の声を把握するのに、重要な役割を果たしている。

市では、同センターが実施する事業内容を詳細に拘束することはしていない。市では、外国人の生活相談や就労支援、情報提供といった事業の概要を定め、月一度の打合せを行う等、事業運営への関与は必要最小限度にとどめており、外国人自身が主体的に考え、活動する形をとっている。

#### (2) 同センターの活動内容

同センターでは、定住する外国人が自立して生活を送るための以下の支援を実施している。

- ① 各種生活相談



- ② 就職に必要な知識や情報の提供と入手方法の支援
- ③ 日本の分野や習慣などに関する情報提供
- ④ 外国人の雇用機会の拡大に向けた支援
- ⑤ 地域コミュニティとの交流の支援

①の相談業務等における対応言語は、ポルトガル語、スペイン語、中国語、タガログ語である。センター運営当初は、中国語やタガログ語の対応はほとんど行われていなかったが、センターを運営するNPO法人「ブラジル友の会」のイニシアティブの下、中国人やフィリピン人のコミュニティに対し働きかけを行ったことで、これらの言語に堪能で地域事情にも詳しい人の協力を得ることができ、中国語やタガログ語での相談を月2回実施するに至っている。

外国人から受ける相談は、教育や健康に関することを中心に、悩み事や領事館での手続きに関する事項、翻訳の依頼なども寄せられている。なお、行政に関する相談は市役所において通訳を交えて対応しているため、同センターでは行政では対応できない民事の相談を中心に受け付けている。また、行政に関する相談であっても、同センターの相談員自らが、インターネット等による調査、市役所やハローワークへの聞き取り、他の地域の外国人コミュニティとのつながりを活用した情報収集等、主体的な活動によって応じている。

④の就労支援としては、外国人を対象としたパソコン教室や日本語学習の実施に加え、日本での生活の心構えについての意識啓発を外国人目線で実施している点が特徴的である。また、地域の事業主向けに外国人の採用・雇用に関する啓発活動も実施している。

③の情報提供業務の一環として、メールアドレスを登録した外国人に対してメールによる情報提供も実施している。その内容は、ハローワークの情報を始め、今では地域の警察署と協定を結び、警察署から提供される地域の不審者等の情報をポルトガル語やタガログ語に翻訳して送付する「安心・安全メール」の送付も実施している。現在720人程度の外国人がメールアドレスを登録している。これらの副次的な効果として、同センターと警察署との信頼関係ができたことで、外国人が警察に相談したい事項を同センターが整理して警察に連絡する等、警察の窓口機能としての役割も果たすようになってきている。

また同センターは、地域の多文化共生の拠点として、各種イベントの開催等も行っている。

### 3. 事業実施年度と予算額

本事業の予算額は、2009年度～2011年度の3年間で32,878千円、2010年度の予算額は11,634千円である。

同事業は、厚生労働省「ふるさと雇用再生特別基金事業」を受けた、岐阜県の「岐阜県市町村ふるさと雇用再生特別基金事業費補助金」を活用している。

### 4. 事業の実績・成果等

事業運営を外国人コミュニティに委託したことにより、

- ・ 外国人の目線で支援ができています
- ・ ブラジル人コミュニティが、フィリピン人や中国人のコミュニティも巻き込んで相談業務や多文化交流イベントを開催するなど、外国人自身が自分たちの問題と認識し始め、積極的に取り組むようになっている
- ・ 同センターが集まりやすい場所となり、情報交換や交流等により外国人コミュニティに力が付き始めている

といったメリットが生まれている。

また「ブラジル友の会」他、センターの運営に協力している外国人コミュニティがブラジル、ペルー、フィリピン、中国の領事館とつながりをもっていることから、市の委託事業だけでなく、コミュニティについて各国領事の人はどう思っているか、どのような支援をしてくれるか、どうしたら支援してくれるかといった内容を引き出す会の開催を企画している。また、ブラジルやフィリピンの領事館による出張領事館の実施や、中国の領事の来市など、センターの業務以外に活動の広がりが見られている。

「ブラジル友の会」が自立し始めたことが呼び水となり、他の外国人コミュニティにおいても自分たちで積極的に活動しようという機運が生まれているとみられる。例えば、市内に嫁いだ中国人の間でコミュニティが立ち上がり、県の国際交流センターから事業を受託する事例や、それぞれのコミュニティで領事館とのつながりを構築するといった事例が生まれている。

国の基金事業は2011年度で終了するため、その後の事業継続については財源面での課題が残っており、美濃加茂市では同センターの運営により育った外国人の力を維持し、さらに引き出す方策について検討を進める予定としている。





定住外国人自立支援センターが入居する多文化交流センターの外観



多文化交流センターの内部（定住外国人自立支援センター受付）

出所) 美濃加茂市 Web サイト

<http://www.city.minokamo.gifu.jp/seikatu/contents.cfm?id=3371&glid=5>



多文化  
共生



岐阜県美濃加茂市 H23.2.24 1

## 美濃加茂市の人口

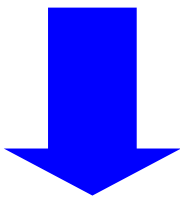
2011年2月1日現在

■総人口

55,159人(男 27,309人 女 27,850人)

■外国人登録者数

4,858人(男 2,349人 女 2,509人)



総人口の  
8.81%

内訳(上位6カ国のみ)

ブラジル籍	2,777人
フィリピン籍	1,387人
中国籍	361人
韓国・朝鮮籍	101人
ペルー籍	112人

外国人登録者の57.2%

# 多文化共生プランプラン

## Ⅲ 多文化共生の地域づくり

### ～地域社会に対する意識啓発～

#### ■ 多文化共生推進座談会 (1)

お互いに「顔が見える関係づくり」を行うことにより、「誰もが安心して生活できる多文化共生社会」の形成を目的とする。また、地域における多文化共生推進のキーパーソンの育成を図る。



加茂野地区(2010年度)



古井地区(2008年度)



太田地区(2009年度)

3

## H22年度 加茂野地区座談会 (2)

1月現在



第1回  
どんな  
問題が  
あるか  
？



第2回  
課題の  
意見  
交換



第3回異文化を知ろう  
ブラジルの教会見学と料理



第4回日本文化を知ろう  
餅つき会

第5回イベント参加の感想



第6回地域行事参加  
防災訓練

4



# H22年度加茂野地区座談会(3)

成果

地域行事に多文化共生の視点を取り入れる気付きが生まれてきた

課題

役員に意識の変化は見られるが住民に広がっていない  
外国人は受身で積極的な機運には至っていない

新しい仲間と笑顔で暮らすまちづくり

対策

最終回予定：住民対象に講演会と料理・お菓子の持ち寄り試食会

今後・新年度役員への出前講座で継続性を図る  
・外国人も同じ地域住民、わかり易い案内  
・外国人のコミュニティづくり。自治会加入

5

## 多文化共生プラン

### Ⅲ 多文化共生の地域づくり

～外国人市民の自立と社会参画～

#### ■ 美濃加茂市定住外国人自立支援センター(1)

地域で暮らす外国人のための生活相談や、解雇された外国人への就労支援、就業促進のための各種事業を行う。

運営：NPO法人ブラジル友の会

期間：平成21年7月1日～

平成24年3月31日

業務：生活相談、就労支援、情報提供など

職員：2人

営業：月曜日～土曜日 9:00～18:00

※土は17:00まで

(日曜日、祝祭日、年末年始は休日)



6

## 美濃加茂市定住外国人自立支援センター(2)

ふるさと雇用再生特別基金事業費補助

1生活  
相談

相談者991人(月平均110)／4～12月／出張相談有  
内容:教育・健康 言語:5(ポ・ス・中・夕)

2就労  
支援

パソコン講習、日本語講習  
啓発講演(地域事業主向け、外国人向け)

3情報  
提供

メール等登録者720人  
警察署と協定(多言語安心安全メール、予約制相談)

7

## 美濃加茂市定住外国人自立支援センター(3)

成果

フラジル人NPO委託⇒①外国人の目線で支援 ②NPOに力が付いてきた ③自分たちの問題と認識 ④他国外国人コミュニティの自立見本

課題

補助終了後の①事業の継続  
②外国人の活動拠点

対策

新しい仲間と笑顔で暮らすまちづくり

外国人コミュニティによる自立活動、  
交流活動への支援

8